

財団法人国連大学協力は日本における国連大学の公式支援窓口です

jfUNU Newsletter

NO.9 2009年6月



特集—国連大学サステイナビリティと平和研究所

- UNU-ISPの3つのテーマ領域 2
- UNU-ISPの将来構想
大学院学院の授与とツイン研究所 3
- UNU アクティビティレポート 3
- インフォメーション 4

サステイナビリティと平和研究所が始動

国連大学 (UNU-ISP) は、2008年12月にドイツ・ボンで開催された第55回理事会において、国連大学本部 (東京都・渋谷区) に新たに「国連大学サステイナビリティと平和研究所 (United Nations University Institute for Sustainability and Peace 略称 **UNU-ISP**)」を設立することを正式に決定しました。これは2007年9月に就任したオスターヴァルダー学長の新構想に基づくもので、武内和彦国連大学副学長が2009年1月1日付で、所長に任命されました。

UNU-ISPでは「サステイナビリティと平和」という総合的なテーマのもとに、学際的な研究活動を展開し、地球規模の緊急課題の解決を目指します。「サステイナビリティ (持続可能性)」を環境分野のみの問題として捉えるのではなく、平和と安全保障の分野にとっても大きな課題であると考え、既存の国連大学研究施設の協力体制をいっそう強化するとともに、国連大学と世界の学術界や政策提言部門との連携も構築していきます。また、UNU-ISPは将来的に、地球環境や平和問題を扱う大学院を開設し、さらに発展途上国の研究所と一体のツイン研究所構築を進め、アフリカやアジア太平洋地域での活動を積極的に推進していきます。

過去10年間、国連大学本部では「環境と持続可能な開発」、「平和とガバナンス」という2つのプログラムを中心として、学術活動を進めてきました。しかしながら、気候変動の激化、エネルギー資源の枯渇や食糧危機の到来が、とりわけ最貧国の安全保障や平和に大きな影響を及ぼすように、環境問題と人間の安全保障、持続可能な平和の問題は、いまや相互に密接かつ複雑な関わりを持つようになってきました。

そこでUNU-ISPでは、過去の2つのプログラムの強みを生かしながら、「サステイナビリティと平和」という新たなテーマのもとで、分野横断的な課題を有機的に関連づけ、「地球変動」、「開発」、「平和」、「安全保障」などの問題に、革新的で総合的なアプローチで研究活動を展開していきます。2月に、アフリカにおける持続可能な開発のための教育をテーマとしたシンポジウムを開催したのをはじめ、すでに多彩な研究・人材育成活動を次々スタートさせています。



UNU-ISP 設立記念レセプションで。左からパライル UNU 副学長、オスターヴァルダー UNU 学長、伊藤外務副大臣、塩谷文部科学大臣、武内 UNU 副学長 (UNU-ISP 所長)、西村外務大臣政務官

UNU-ISP の取り組み

- 研究、教育、トレーニング、能力育成とともに、国連とその関係機関、研究者、市民に科学的な知見と情報の普及をはかる。
- 大学院生と専門家に、幅広い理解を得る機会を与える。
- 自然科学、社会科学、人文科学を統合したアプローチによって、政策の枠組みやあらゆるレベルの管理活動の発展と強化に貢献する。

UNU-ISP 設立記念パーティーが開催されました

3月26日、UNU-ISPの設立を記念して外務省、文部科学省、国連大学協会 (jfUNU) の共催によるレセプションが東京・渋谷の国連大学本部で開催されました。最初に塩谷文部科学大臣が「国連大学が、サステイナビリティ学を推進してきた」とこれまでのUNUの活動を高く評価。そして「UNU-ISPの設立によって、いっそうサステイナビリティと平和の研究が進展することを期待する」と挨拶しました。続いて伊藤外務副大臣、西村外務大臣政務官がスピーチを行った後、武内副学長が国連大学の「新戦略とUNU-ISPについて」プレゼンテーション。さらにjfUNUの吉川理事長、矢嶋会長が、UNU-ISPの今後の新プロジェクトは、日本の社会や人々にとっても大きな貢献を果たすことになるだろうとメッセージを寄せ、その後、会場ではなごやかな歓談が続きました。

UNU-ISP の 3つのテーマ領域

UNU-ISPの研究教育活動は、**サステナビリティと平和**という統合的テーマのもとに、国連が取り組む最も喫緊の3つの領域にまたがって行われています。

(1) 地球変動とサステナビリティ

主に人間の活動によって生じた大規模な変動が、地球環境にかつてないほどの影響を及ぼし、私たちの生存と繁栄に欠かせない生態系のサステナビリティを脅かしています。UNU-ISPでは、持続可能な開発と、それを支える要素（環境、社会、経済）間の相互作用に対する理解を深めることを目指しています。

(2) 平和と安全保障

国連の第一目的は、国際平和と安全保障を維持することです。UNU-ISPでは、暴力的紛争、人権侵害、組織犯罪、病気の蔓延、兵器の拡散、テロなど、平和への脅威に取

り組む研究を進めており、さらに、地政学的な状況の変化や気候変動の問題、経済のグローバル化と相互依存についても調べています。

(3) 国際協力と開発

国連は、「諸国間の友好関係を発展させること」「経済的、社会的、文化的または人道的性質を有する国際問題を解決すること等について国際協力を達成すること」を目指しています。UNU-ISPは、低開発、意思決定における代表不足、国内および国家間の経済・社会的不平等、資源、医療、教育、科学技術への不十分なアクセスなどに取り組む研究を行います。

International Cooperation & Development 国際協力と開発

目的

- 国際的な開発と貿易に対する持続可能なアプローチを策定すること。
- 望ましい社会・文化的統合と女性の平等を達成し、国際協力、法の支配、人権の尊重に貢献すること。
- 持続可能な開発のための教育の効率化と進展をはかること。

テーマ

- 発展途上国の持続可能な開発と有益な投資の推進
- グッドガバナンス、説明責任、汚職対策
- 国際協力：多国間主義と国際法遵守に対する格差と課題
- 基準の策定、国際機関の改革、グローバルな市民社会の台頭

Sustainability & Peace

サステナビリティと平和

Peace & Security 平和と安全保障

目的

- 国連システムに、喫緊の世界平和や安全保障の問題に関するタイムリーで持続可能な政策提言を行うこと。
- 戦争や暴力に関する知識を高め、紛争の力学についての理解を深め、紛争の変化と長期的な平和構築のための指針を作成すること。
- 地球変動と多様な課題を抱えた時代に即した、平和、開発、人権への統合アプローチを構築すること。

テーマ

- 現代の暴力の性質、市民の脆弱性、保護責任
- 紛争防止、平和構築、移行期における正義
- 国連システムと国際法
- 人権と文化・宗教的寛容

Global Change & Sustainability 地球変動とサステナビリティ

目的

- 地球変動の影響を受けるコミュニティが、その悪影響に適応し、それを軽減する方法を編み出せるように能力を高めること。
- 持続可能な開発と生態系保全のできる一般的で総合的なアプローチを策定すること。
- サステナビリティに影響を与える地球変動の要因を見いだし予測する能力を高めること。

テーマ

- 気候変動と適応策
- 水と食料の安全保障
- 災害、汚染、土地劣化、森林伐採に対する危機管理
- 農村・都市のサステナビリティと融合

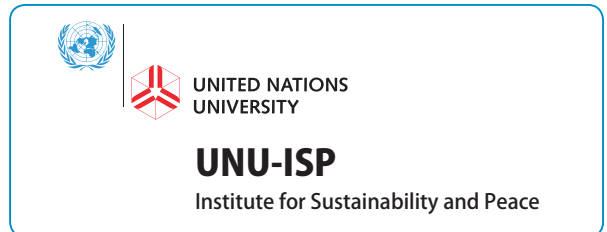
大学院学位の授与

UNU-ISP では現在、共同学位プログラムを開始するため、東京大学、茨城大学、早稲田大学、一橋大学、国際基督教大学、アジア工科大学、ガーナ大学、ケープタウン大学等、日本や外国のトップクラスの大学と協議を行っています。近い将来、東京都渋谷区の本部を拠点として大学院を設立し、UNU-ISP が課題とするサステナビリティや平和に関連するテーマについて、修士号や博士号を授与できるようにする予定です。

具体的な計画として、2010 年秋より修士課程に 20 人を受け入れ、2 年後に博士課程を設置。学生の半数以上は外国人とし、その半数をアフリカなど途上国出身者とする予定です。海外留学生と、共同プログラムに所属する日本人学生の交流の場も提供していきます。

ツイン研究所

UNU-ISP は発展途上国にツイン研究所を設立し、アフリカやアジア太平洋地域の活動を積極的に立ち上げ、携わっていく予定です。すでにガーナのアクラにある国連大学アフリカ天然資源研究所 (UNU-INRA) と提携し、このツイン研究所実現に向けた第一歩を踏み出しています。



UNU アクティビティレポート

■国際女性の日 2009

国連では 1975 年より、毎年 3 月 8 日を「国際女性の日」と定め、女性の可能性を話し合う場としてきた。2009 年度のテーマは、「女性への暴力 ～根絶に向け男女が力をあわせて今できること～」。

3 月 6 日、国連大学本部で行われた「国際女性の日 2009 公開フォーラム」では、潘基文国連事務総長がビデオメッセージを寄せた後、小淵優子少子化対策担当大臣が挨拶し、「女性の日」の意義を強調した。続いてダニエル・トゥールユニセフ南アジア地域事務所長とジャーナリスト堤未果氏（「ルポ貧困大国アメリカ」著者）が基調講演を行い、さらに政府、国連機関、NPO 法人等で活躍する女性たちが、女性を中心に生じる DV（ドメスティック・バイオレンス）や権利確保等の問題について、パネルディスカッションで多角的な議論を展開した。

■アフリカの持続可能な開発のための教育

「持続可能な開発」を達成するうえで、「教育」は不可欠の要素である。昨年、日本で開催された「第 4 回アフリカ開発会議 (TICAD IV)」と「北海道洞爺湖サミット」でも、アフリカの持続可能な開発活動のために教育を推進することの重要性が確認された。

国連大学高等教育研究所と UNU-ISP では、2 月 27 日に公開シンポジウム「アフリカの ESD（持続可能な開発のための教育）推進における大学の役割」を実施した。シンポジウムでは、国連大学職員をはじめ、持続可能な開発と教育の分野の専門家が参加し、アフリカにおけるサステナビリティの課題やアフリカにおける大学間協力、アフリカと日本の ESD 協力などについて、問題の検証と関連する課題について掘り下げた議論が行われた。

■災害リスク低減のための協力活動

世界の自然災害による経済的損失の大半が、台風、サイクロン、ハリケーンなどの強風事象によるものである。UNU-ISP と国際風工学会 (IAWE) は、3 月 4 日から 6 日にかけて国連大学本部で、「災害リスク低減のための協力活動」に関するシンポジウムを共催した。さらに、国連国際防災戦略 (UN/ISDR)、アジア防災センター (ADRC)、東京工芸大学ーグローバル COE プログラム (TPU-GCOE) も加わり、風工学と災害低減の専門家が一堂に会す画期的な国際シンポジウムとなった。

ウムとなった。

シンポジウムでは、研究者、エンジニア、教育者、政府代表者が出席しながら、強風、地震、豪雨、洪水、津波、地すべり、火災などあらゆる種類の災害とその対策について、学際的で分野の枠にとられない討議が行われた。

■アジアにおける、平和構築分野の人材育成セミナー

2007 年、外務省はアジアでの平和構築の文民専門家養成を目的として、「アジアにおける平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」を立ち上げた。同事業は、外務省の委託を受けて広島平和構築人材育成センター (HPC) が実施しているが、HPC では 2009 年 4 月よりその事業を拡充・強化している。

3 月 24 日、国連大学は外務省、HPC と共同で「平和と人材育成に対する日本の貢献：『平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業』の総括と将来に向けた課題及び展望」と題したセミナーを開催した。セミナーでは、過去 2 年間に実施されたパイロット事業の成果と教訓の総括を行い、さらに国連の平和活動に貢献できる人材を、アジアから育てるための課題や展望について、さまざまな観点から議論した。

■持続可能な生活と平和のための資源管理とは

国連環境計画 (UNEP) の報告書によると、国内紛争の 4 割以上が「資源」に関係しているという。開発途上国の生活は、水や土地、森林などの資源と密接に関連しているが、人工構造の変化や政治的要素とともに、気候変動や環境変化により、そうした資源が従来どおり利用できなくなることが原因で紛争が多発するのだとする。

4 月 22 日、国連大学高等研究所で開催された国際セミナー「紛争からの復興における資源管理の役割」は、上記の UNEP 報告書の日本での発表を記念して行われた。報告書の発表に続き、ラウンドテーブル会議において、UNU-IAS と東京大学による新しい研究が紹介され、生活手段の回復と平和構築成功のカギを握るのは、環境と資源の管理であることがあらためて確認された。

国連大学で開催された講演会・シンポジウムは「UNU VIDEO PORTAL」(<http://c3.unu.edu/videoportal/>) でご覧いただくことができます。



Information



ウェブサイトをリニューアルしました

jfUNU では、このたびウェブサイト（ホームページ）をリニューアルしました。新しいサイトでは、これまで jfUNU ニュースレターに掲載したインタビュー記事等を編集のうえ収録したほか、jfUNU が UNU と協力して開催してきたシンポジウムやセミナー等のレポートも掲載。UNU 及び jfUNU の活動内容を、より詳細にお伝えするよう努めています。また、国連大学協力会の事業財政報告や、各種パンフレットもサイト上から PDF ファイルでダウンロードできます。UNU では、2009 年より新しい研究所を設立して新たな活動を展開するとともに、同研究所を基盤として大学院の設立や、アフリカとの研究連携等、新規プロジェクトを計画していますが、そうした内容についても、今後積極的に当サイトでお知らせしていく予定です。



さらに、寄附金のお申し込みや賛助会員の登録申し込み、賛助会員の方々の登録事項の変更等についても、サイト上の入力フォームから行えますので、ご利用ください。

URL: <http://www.jfunu.jp> (従来通り)

UNU からのイベント案内について

UNU では、賛助会員の皆様をはじめ UNU の活動にご関心をお持ちの方々や関係諸機関に、これまで各種イベント案内やお知らせを郵送（郵便・メール便）でお送りしてきましたが、その発送数は、毎回膨大な数に及んでいました。地球環境の保護や資源保全のために、きめ細かい取り組みが望まれる昨今の社会状況に鑑み、今後、郵送によるご案内を取りやめ、基本的に E-mail を中心とした電子的方法によって、情報伝達を行うように変更いたします。UNU が進める地球に優しいグリーンキャンペーンの趣旨をご理解のうえ、ご協力いただければ幸いです。

なお、UNU からのイベント情報を E-mail で受け取ることをご希望の場合は、右記の方法でお手続きください。（いったん講読後のキャンセルも可能です。）英文表示による案内となりますが、入力は簡単です。

- ① インターネット上で <https://forms.unu.edu/contact> (UNITED NATIONS UNIVERSITY CONTACT FORM) にアクセスする。
 - ② UNU からの本件に関する通知文等により、ご自分の Reference Number がお分かりの方は、Do you have a reference number で、Yes をチェック。不明の場合は No をチェックしてください。
 - ③ 次の画面に進み、Reference Number (②で Yes にチェックした場合)、First Name (名)、SurName (姓)、Organization (所属) を番号・ローマ字で入力。特に所属がない場合は、None と入力してください。
 - ④ 情報を受け取るための自分のメールアドレスを Email Address に入力。確認のため、同じアドレスを Confirm Email Address に入力。以上が必須入力項目で、それ以外の項目は入力しなくても構いません。
 - ⑤ 下部で、I wish to receive UNU's announcements..... がチェックされていることを確認し、Save Contact Information をクリック。
- 以上で完了です。

国連大学協力会賛助会員の皆様には、jfUNU より、メールマガジンならびにウェブサイトの更新情報 - RSS 配信 (jfUNU ウェブサイトをご覧ください) を通じて、イベント情報をご案内させていただきます。



財団法人 国連大学協力会

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70

TEL 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349

URL <http://www.jfunu.jp/> E-mail jf@unu.edu

jfUNU では賛助会員を募集しています